

## 27年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
入荷動向	国産材	△ 8.3	△ 8.3	0.0
	外材	△ 37.5	△ 25.0	△ 12.5
在庫動向	国産材	16.7	0.0	0.0
	外材	12.5	△ 12.5	△ 25.0

・国産材ラミナの入荷は1月、2月の減少が3月に横ばいに、外材は3ヵ月連続して減少。

・国産材ラミナの在庫は1月の増加が、2月、3月は横ばいに、外材は1月の増加、2月、3月は減少に。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
国産材	8.3	0.0	0.0
欧州材	25.0	50.0	37.5
その他	—	—	—

・国産材ラミナ購入価格は総じて保合、欧州材は3ヵ月連続してやや強保合で推移。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・県内スギ丸太不足で若干入荷状況悪い。カラマツは北海道産が順調な入荷だが、岩手県産は原木単価が高いため入荷状況悪い。在庫は、スギラミナは入荷を若干抑えているためやや減少、カラマツは北海道産の入荷が順調で在庫はやや増加傾向。  
・外材は契約数を減らしたため、入荷は減少する。外材在庫は大きく減る見込み。

## (ラミナ価格動向)

・スギは丸太不足感による価格上昇の影響で1月より約5%の値上げ実施。カラマツは前月と同じ。  
・為替の影響で不透明。

## 27年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
生産動向	国産材	8.3	16.7	0.0
	WW集成管柱	△ 12.5	12.5	△ 12.5
	RW集成平角	0.0	12.5	△ 12.5
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	△ 33.3	△ 8.3
	WW集成管柱	12.5	△ 50.0	△ 25.0
	RW集成平角	50.0	△ 50.0	△ 25.0
	米マツ集成平角	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は1月、2月の増加が3月には横ばい、WW集成管柱は1月減少、RW集成平角は1月横ばいだが、共に2月は増加、3月は減少に。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

・集成材の出荷は、1月は国産材及び米マツ集成平角は横ばい、WW集成管柱及びRW集成平角は増加だが、2月、3月はそれぞれ全てが減少に。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
スギ集成管柱	0.0	△ 12.5	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	△ 16.7	△ 16.7	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	25.0	25.0	25.0
RW集成平角	37.5	37.5	25.0
米マツ集成平角	0.0	25.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 50.0	△ 50.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ及びカラマツの集成材の出荷価格は総じて横ばいないしやや弱保合。

・WW及びRW集成材は3ヵ月連続して強保合で推移。

・米マツ及びカラマツは総じて横ばい一部にやや強保合。米ヒバは1月、2月の弱含みが3月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

- ・12月同様、予想を上回る受注ではあるが生産キャパシティを埋めるまでには至らず、受注量に応じた生産体制は変わらない。12月からの受注残が1月に繰越、災害公営住宅への納材を含め出荷はまずまず。2月以降は住宅着工減と11～12月の仮需反動減で販売苦戦は必死。
- ・2,3月には生産調整時期を迎える見込み、また出荷減となる見込み。

## (構造用集成材出荷価格動向)

- ・スギは、2月はハウスメーカー等の値決め時期。原料コストは上昇傾向、本来であれば値戻しをしたいが、住宅受注状況も考慮すれば値下げもあり得る。価格据え置きで留めたい。カラマツは競合樹種の動向次第では値上げも検討したが、需給バランスを考慮し当面様子を伺う。需要の見通しも悪く、価格は横ばいと見込み。
- ・1月にて価格は止まる見込み。